

令和3年度 学校評価総括表 伊丹市立こうのいけ幼稚園

教育目標		豊かな心をもって、生き生きと遊ぶ子供の育成					
重点目標		安全・安心な教育環境のもと、「子供主体」の遊びを支え、子供の主体性を育む教育を推進する					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力的向上	主体性の育み	<ul style="list-style-type: none"> 子供が、探索し、思考する喜びを感じられるような保育の創造、研究を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供が、探索し思考する喜びを感じている姿をとらえたエピソード記録をためていき、教師の援助、環境構成のポイントを明らかにする。 園庭環境図を活用し、遊びの中で、探索し、思考する喜びを感じられるような環境構成を話し合い、日々の保育に活かす。 保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、子供の発達や興味関心に応じた保育を行い、子供達の意欲や主体性が育まれるように努めている」「子供は、入園前よりも『自らいきいきと遊ぶ子』に育っていると感じる」「幼稚園は、子供に経験させたい遊びを工夫して取り入れていることを保育ドキュメンテーションやクラスだよりから感じられた」と回答した割合が、それぞれ80%以上になる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> エピソード記録のカンファレンスの回数は、年度当初の計画通りにはいかなかった。エピソードは、担任だけでなく他の職員も作成し、職員全体でカンファレンスすることで、探索し、思考する姿を捉える力がついた。 年度途中で、エピソード記録の形式をより視点を細かく分けたものに変えることで、子供の姿からの読み取りが深くできるようになり、探索し思考する姿につながる教師の役割のポイントが見えてきた。 園庭環境図を活用した話し合いは園内研究会の機会等、数回にとどまった。しかし、日々の園庭環境設定時や保育後の時間に、教師間で遊びの話を行い、連携を取ることができていた。 保護者アンケートにおいては、3項目ともに99%以上の肯定的な回答があり、子供主体の遊びを大事にしていることが保護者に伝わった。 	<ul style="list-style-type: none"> エピソード記録をもとにしたカンファレンスの回数を見直す。 引き続き、園庭環境図の紙面にとらわれず、効率よく教師間の連携を図っていく。 	<p>保護者アンケートによる客観評価において、それぞれ高評価を得ているとともに、設問17の自由記述においても、多くの保護者が園児の家庭内言動に具体的な記述を行っており、それぞれの子供が経験し、考えて行動し、主体性、個性を発揮していることは、園としての取り組みの結果であろうと評価する。</p>
	生きる力の基礎を育む	<ul style="list-style-type: none"> 子供が四季を感じ、興味関心をもって自然に関わることができるよう、季節や学年に応じた栽培計画を立て、園庭の環境を整える。 身近な自然事象について興味・関心が深められるよう、発達年齢に応じた環境を準備し、子供の好奇心や探究心に寄り添う。 	<ul style="list-style-type: none"> 一年を見通した栽培計画のもと、園庭環境を計画的に整える。 年齢に応じた図鑑や絵本等、視覚的教材を揃え、子供が自然物と関わり思考力を働かせる姿が増える。 保護者アンケートにおいて、「子供は、自然への興味・関心が深まっていると感じる」と回答した割合が80%以上になる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学年ごとに変化に気付くことができる場所で栽培活動を行った。子供が色とりどりの花や葉を遊びに取り入れられるよう、保護者の協力も得ながら子供と一緒に様々な場所に植え、園庭環境を整えた。 草木や花、虫や天気など、身近な自然事象について、調べたい時にすぐに調べられるよう各保育室に絵本や図鑑を置くことや、持ち出せる図鑑を準備したことで、友達と予想を立てながら観察する姿が見られた。また、各学年月刊教材として自然に関する絵本を取り入れ、月ごとに子供が体感する自然の変化に関心をもつ機会となった。 保護者アンケートにおいては、96%の肯定的な回答を得られた。子供が園庭や身近にある自然環境に興味関心を広げ、豊かな体験が行えたと評価された。 	<ul style="list-style-type: none"> 野菜や花の栽培計画については、学年ごとだけでなく、36か月を見通した栽培時期や内容の検討を行う。また、生長や収穫の喜びを味わうことや学年ごとの遊び方について十分に話し合い、計画的段階的に進められるようにしていく。 子供が自然を身近なものと感じ、様々な遊びに取り入れて遊びのイメージをより豊かにすることの楽しさを感じ、大切に扱う心を育てられるよう、年間を通じて環境を整えるとともに、教師自身が自然物の知識をもち、子供の豊かな経験につなげていく。 	<p>保護者のアンケートのよる客観評価において高評価を得ているとともに、参観ウィークの訪問時の戸外遊びにおいて、幼稚園施設、設備を活用した園庭、樹木、落ち葉の自然化に取り組み、子供たちの創造醸成に寄与されていることに対して高く評価する。四季の彩りの花や葉を遊びに取り入れるなど自然環境に対する興味や体験させていく取り組みは素晴らしいと感じた。栽培している種類が豊富で、収穫したり、花で色水を作って遊んだりしている姿は楽しそうだった。</p>
	一人一人を大切に育てる教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別指導計画のねらいを達成できるよう職員間で情報の共有を深めながら支援に努める。 必要に応じて専門機関と連携を図る。 すべての子供の発達や課題・よさについて職員間で理解を深め、保護者と共有しながら育ちにつながる保育・支援に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別指導計画に基づき、どの子にも分かり易い表示や過ごしやすい環境の設定や支援を行うことで園生活を自分の力で進めやすくなる。 保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、個々の発達や特性に応じた指導を行い、ひとりひとりを大切に教育を行っている」と回答した割合が80%以上になる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 子供たち一人一人が持っている力を発揮しやすくなることを目指し、自分の力で無理なく楽しみながら課題を達成していけるような教材の作成・準備をした。どの子にもわかりやすい視覚的な表示や心地よく過ごせる環境を整えた。 環境を整えることで困難さが軽減され、自分で生活を進めやすくなった子もいた。 個々の発達に応じて、外部機関との連携をとり専門的な意見を仰いだ。研修会にもすすんで参加し環境の見直しや関わり方の改善に努めた。 保護者アンケートでは「幼稚園は、個々の発達や特性に応じた指導を行い、ひとりひとりを大切に教育を行っている」と肯定的な回答の割合が97%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供の育ちに見通しを持った長期目標のもと、引き続き一人一人の発達・特性に応じた指導計画と保育支援に取り組む。 外部機関との連携による専門的な意見を仰ぐ。職員間においては日々の情報交換に努める。学年を超えた連携と共通理解を図る。 すべての子供が心地よい園生活を送れるよう、発達に応じた教材の提供や環境の構成の工夫・改善に努めたり、研修会にも積極的に参加したりする。 学級懇談会・個人懇談会、連絡帳を利用し、子供の発達や成長・子育ての悩みを共有し子育てに寄り添いながら保護者と連携を図る。 	<p>保護者のアンケートのよる客観評価において高評価を得ているとともに、園児全体への共通した取り組みではなく、一人一人を大切にされた取り組み、すなわちユニバーサルデザイン化に意を注がれていることに対し評価する。障害のある園児を基本とした、すべての園児一人一人のための教育推進が必要と思われる。</p>
豊かな心・健やかな体	生命の尊重・道徳性の芽生え 思いやりの心の育成	<ul style="list-style-type: none"> 飼育や栽培を通して、生き物や自然を身近に感じ世話をする大切さや自然の変化を知れる環境を構成する。 日常の中で異年齢のかかわり、互いが優しい気持ちや喜び、感謝の気持ちをもって過ごせるようにする。 教師の道徳性を高め、人権について意識をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然物の水やりや栽培、飼育では掃除などお世話をすることを意識して取り組む姿が増える。 日常の生活の中で、自分から異年齢のかかわりが増える。 人権について教師間で話し、意識を高める。 保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、誕生会や飼育栽培活動、身近な自然環境を取り入れた保育活動等、命にふれる機会を設け、命の大切さを感じさせている」「幼稚園では人とかかわりの中で感謝の気持ちや相手に思いをもってかかわれる子』に育っていると感じる」と回答した割合が、それぞれ80%以上になる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 園庭の草花の水やりを継続して行うことができた。 各学年野菜の栽培を行い世話をしやすい場所に置くなど、環境を整えたことで栽培を意識する取り組みができた。 園生活の中でけがをしている子がいたら声をかけ保健室に連れていき担任に状況を伝えたり、友達に遊び方を教えたりと相手を思い優しく声をかける姿が見られた。 保護者は人権の観点から、書面と学級懇談会の形式で研修を行った。学級懇談会では、各学年の実態に合わせたテーマを決めて行うことで、保護者同士の繋がりができ、相手(子供など)を認めることの大切さを感じていただくことができた。 職員間では人権研修を行い、様々な意見や考えを出し合い、部落差別や発達障害についての差別事案から、さらに人権について考え関心を深めることができた。 保護者アンケートで2項目とも97%、96%の肯定的な回答があり、園生活、集団生活の経験の中で命の大切さや相手に思いやりをもってかかわる大切さを伝えることができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師が意図して環境を整え、学年を越えて、律動や弁当等活動や行動を一緒にしたり、うさぎの世話の仕方を教えたりするなど、かかわりをもてるような機会をもつ。 引き続き自然物の水やりや栽培、飼育を行い子供が自ら愛情をもって世話をする力をつける。 人権研修1回では伝えられないこともあるので継続的に身近なことから人権を考えられるような機会をもつ。 	<p>保護者のアンケートのよる客観評価において高評価を得ているとともに、設問17の保護者の自由記述においても、園児の家庭内における言動に他者を大切にすると記述が多くある。いま社会で求められている子供たちの自己肯定感の醸成への取り組みに大いに努力されていることに対し評価する。</p>

	健やかな体作り	<p>基本的な生活習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供が生活習慣に関心をもつよう発達に応じた、「ほけんの話」や親子で取り組む「げんきカレンダー」を実施する。 ・げんきカレンダーで、保護者が聞きたいことなどを記入してもらい、より個々に応じた生活習慣の確立を保護者と連携してはかる。 ・自分と他者の命を守る為の新型コロナ感染症対策を指導、実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートにおいて「『ほけんだより』や親子で取り組む『げんきカレンダー』は、健康な生活を意識する機会となっている」「子供は、入園前よりも「基本的な生活習慣や健康な生活について、意識をもち自ら取り組もうとする姿」が見られるようになったと感じる」と回答した割合が、それぞれ80%以上になる。 ・掲示物を通して子供が関心をもって「ほけんの話」を振り返り、自ら進んで取り組んでいる。 ・衛生環境を整え、感染症対策を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回、時期や発達に応じた「ほけんの話」を実施し、2か月に1回「げんきカレンダー」を実施することができた。 ・げんきカレンダーで、保護者が聞きたいことや困っていることなどを記入してもらったことで、個々に応じた話ができ、生活習慣の確立を保護者と連携することができた。 ・アンケート結果では、94%、93%の肯定的な回答があり、基本的な生活習慣の確立に向けた実践が評価された。 ・「ほけんの話」をした後に話した内容を掲示することで、振り返ったり、自ら進んで取り組んでいたりしていた。 ・感染症対策では、消毒、手洗い、マスクの着用など、感染予防の指導、実施し感染症予防に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続き「ほけんだより」「げんきカレンダー」を通じて基本的な生活習慣や健康な生活について意識を持つように、発達に応じた内容や親子で取り組める内容を再検討し、啓発していく。 ・保護者意識を高めていくために、家庭での取り組みや工夫、質問等を保護者に啓発していく。 ・今後も時期や発達に応じた教材や掲示の工夫をし、生活習慣に関心をもつように保健指導を行う。 ・引き続き、感染症対策を行い子供自身が意識して取り組み、安心安全に過ごせるように努めていく。 	<p>保護者のアンケートのよる客観評価において高評価を得ているとともに、月1回の保健指導、年間10回の親子で取り組む「げんきカレンダー」によって幼児の基本的な生活習慣の確立に取り組まれ、とりわけ新型コロナウイルス感染症対策のための手指消毒、手洗い、マスク着用の習慣化等予防指導には大変な労苦があったものと推察し、評価します。</p> <p>「げんきカレンダー」はシール貼りや色ぬりで楽しく取り組めるいい機会ではあるが、内容については毎年変えていくなどの工夫が必要である。</p>
開かれ信頼される学校園	教育活動への理解の推進	<p>園情報の積極的な発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読みやすさを工夫し、子供の学びを可視化できるようなドキュメンテーションの作成、掲示板の更新を行う。 ・日頃の園生活や子供の学びや育ちについてのホームページを月5回程度更新し、積極的かつ継続的に園の情報を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドキュメンテーションを活用し、子供の遊びにおける学びを分かりやすく知らせる。 ・ホームページや掲示板の更新を全職員で意識できるよう、園務日程に位置づけ、計画通りに更新する。 ・保護者アンケートにおいて、「園だよりやクラスだより、ホームページや掲示板、ドキュメンテーション等は、幼稚園での行事や活動の様子、園の教育方針、子供の学びや育ち等を知るのに役立っている」と回答した割合が、それぞれ85%以上になる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ドキュメンテーションを掲示する際は、3学年の活動内容やそれぞれの学びが保護者に伝わるよう、まとめて掲示した。また、活動報告にとどまらず、子供の心の動きや思考し、学んでいる姿、育っている力を分かりやすく書くことを意識できた。 ・掲示板はおむね計画通り更新することができた。ホームページについては、タイムリーかつ計画的に更新することができにくく、広く地域への教育活動の啓発を十分に行うことができなかった。 ・保護者アンケートにおいて、96%の肯定的な回答があり、子供の学びやクラスの育ちが伝わっていることが分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の遊びには学びがあることを保護者や地域へ広く啓発できるように、ホームページの更新をタイムリーに行えるよう分担する。 ・ドキュメンテーションやクラスだよりでは、職員が端緒的な表現で伝えたいことを書き込み、「読んでもらえるドキュメンテーション」を目指して取り組んでいく。 	<p>保護者のアンケートのよる客観評価において高評価を得ているとともに、既にホームページが開設されており、リアルタイムの情報を提供できる便利なツールではあるものの、その更新には時間とマンパワーが必要である。幼稚園業務をこなしながら目標である月5回以上の更新を目指されているが、少々厳しさがあったと思われる。今後はホームページを活用し、タイムリーに情報提供をするとともに、ドキュメンテーションでの掲示の活用等保護者等への情報提供に努めること。</p>
	安心して安全な園作り	<p>危機管理の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初より月1回安全点検し、危険箇所は写真を用いた可視化をして共通理解を図り、破損や危険箇所(設備・害虫等)があれば速やかに対応・改善する。 ・遊びの中での危険やけがを防ぎ、安心・安全に幼稚園生活を送れるように、園庭環境図を活用して危険箇所を話し合い、職員全員で共通理解する。 ・学校安全計画、事件事故への対応マニュアル及び防災計画、洪水時の避難確保計画を職員全員で確認する。 ・様々な事象を予想した避難訓練(洪水、火災、地震、防犯)・通報訓練(火災、県警ホットライン)を実施する。 ・一斉メールを活用した緊急時の保護者への連絡と引渡しの訓練を実施する。 ・日々の生活の中で、発達年齢に応じた防災、安全な過ごし方について指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画と子供の実態に即して園児への安全指導(日常生活、幼年消防クラブ活動、交通安全指導含む)を行う。 ・年4回避難訓練及び通報訓練を実施し、反省点を踏まえてマニュアルや各計画を見直す。 ・職員の危機管理意識を強化するため、日常ヒヤリハットを迅速に伝達し合い、改善策を素早く話し合う。 ・安全カード、一斉メールを活用した保護者への連絡と引渡しの訓練を実施し、実情に応じた対策を検討する。 ・破損や危険箇所の改善に向け迅速な対応を行う。 ・3歳児が安全に過ごすことができる安全点検、日々の環境設定を見直し、子供への指導の機会を増やす。 ・保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、安全を意識した改善を行い、遊びを通して学ぶ場として、子供が活動しやすい環境を整えている」と回答した割合が、80%以上になる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・幼年消防クラブ、交通安全教室は、状況に応じて、5歳児のみで必要な経験をすることができた。 ・避難訓練、通報訓練を計画的に実施し、職員間の反省をもとに、実際の災害を想定した動きを身につけられるようにした。 ・職員の危機管理意識を強化するために、日常ヒヤリハットを伝達し、物の置き場、片付け方などを共通にして安全な環境作りに努めた。 ・安全カード、一斉配信を活用した保護者への連絡、引き渡し訓練を実施すると共に、実際に警報が出た際にはそれらを活用し、保護者に子供を安全に引き渡すことができた。 ・破損、危険箇所の改善に向け、迅速に対応し、危険箇所を長期間残すことのないようにした。 ・3歳児の子供の実態に即して、園庭での遊具の使い方、道具類の扱い方などを指導する機会を設けた。 ・保護者アンケートにおいて96%の肯定的な回答を得ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、年齢や発達に応じた、安全指導を行い、子供が自ら考えて行動できる力をつけていく。 ・避難訓練における役割を職員間で代わり合って行い、様々な危機的状況にも、対応できる力の向上を図っていく。 ・日常ヒヤリハットの伝達を職員間でめれなく行い、共通理解して、安全な環境作りに努めていく。 ・訓練時だけでなく、日頃から一斉配信の確認を保護者に促す。 ・破損、危険箇所の改善が今後もスムーズに行くように、日頃から危機管理意識をもち、迅速に対応できるように努める。 	<p>安全・安心に係る対策は、多くは予測できない状況から突如生じる危険に対し、如何に行動がとれるかにかかっており、それを補足するには、危機管理のための意識向上、体験、訓練が重要であり、それだけ多くの取り組みをされ、効果をあげられることに対し評価する。しかし、より一層効果を上げるために、訓練回数を増やすことも検討してほしい。また、3歳児の安全対策にはご苦労があるかと思われる。</p>

学校関係者評価総括

重点目標の各項目における重点項目について、総じて肯定的な評価をさせていただいたところであり、今後も各項目であげられている改善策に対して具体的な取り組みを期待する。なお、幼稚園業務において多忙極まりない様子が見て取れる中、今後とも園内での各事業別評価を職員全員で意見交換され、前例踏襲も必要なことかもしれませんが、新たな取り組み、不必要な事務の見直しなど、スクラップ・アンド・ビルドの方針で業務改善が行われることが肝要かと思えます。園児一人一人が先生方を見ています。大いに期待しています。

今年度もコロナ禍で制限がある中、園外保育、参観、運動会など、楽しく学び活動でき、園児にとっても保護者にとっても、昨年度より充実した1年であった。

次年度に向けた重点的な改善点

幼稚園活動の情報発信に積極的に取り組む。ホームページを適宜更新していくことは、在園児の保護者だけでなく、これから入園をしてみようと検討している保護者等に対しても、このいけ幼稚園が取り組む教育保育活動を知ってもらい貴重な情報発信である。

仕事は楽しく、やりがいを持って取り組むことが、ひいてはその対象となる子供たちへの効果が大きくなるものと思われる。やはり際限なく広がる仕事を、大胆に抑えていくことも重要。なかなか数値では表せないが、今やっている仕事量を何パーセントかをカットことや、超過勤務時間を月45時間以内にしていこう、先生方一丸となって、そして英断を持って取り組む。

コロナ禍における保護者参観等のあり方について、感染防止対策を徹底しつつ、その機会が増えるよう検討していく。

自己評価の基準 A：目標を上回った B：目標どおりに達成できた C：目標をやや下回った D：目標を大きく下回った